

学園だより

社会福祉法人 至誠学園立川

至誠学園

平成 19 年 10 月 28 日

〒190 - 0022 東京都立川市錦町 6 - 26 - 15

TEL 042 - 524 - 2601 FAX 042 - 524 - 2367

HP <http://www.shisei.org> e-mail info@shisei.org

発行責任者 施設長 高橋 久美子

新しく設置 地域小規模児童養護施設「万願寺」



地域小規模児童養護施設「万願寺」11月1日に開設

地域小規模児童養護施設は平成 12 年度より厚生労働省の施策として制度化された国型のグループホームです。東京都独自のグループホーム事業との業務内容に大きな違いはありませんが、制度に大きな違いがあります。

地域小規模児童養護施設は小さな施設であり、本体施設と切り離して考えられるため、単純に定員が増員となりますが、都型のグループホームは施設の分園として考えられるため、本体施設の定員の中から地域のグループホームに出る形になります。

これまで地域小規模児童養護施設は1施設につき設置できるのは1箇所だけであり、至誠学園においては平成 14 年に「日野キッズ」を東京で初めて設置しましたが、近年の要保護児童の急激な増加で受け皿が不足する中、厚生労働省は里親養育も含めた全国で現在3万人の定員を、4万人まで増やす目標を打ち出し、施設整備を進めています。

その一環として地域小規模児童養護施設も 100 箇所の設置目標を 200 箇所に引き上げ、同時にこれまでの1施設一箇所設置を複数設置できるように、昨年度制限を緩和しました。定員増への国や都の強い要望から「万願寺」の開設に踏み切りました。この改修費用 800 万円のうちの一部 200 万円は日野市によって助成をいただき、備品等については財団法人昭和会館様より 250 万円、財団法人原田積善会様より 30 万円いただきました。

多機能型グループホーム

東京都からの要請で「万願寺」は多機能型のグループホームとして運営されます。グループホームに地域子育て支援事業・日野市ショートステイを付加し、実施するための部屋を設け、共有部分もスペースにゆとりを持たせています。(5LDK)

今後は日野市子ども家庭支援センターと連携し、状況とニーズを見極めながら、放課後対策等への対応も検討する予定です。

建物は企業事務所であったものを長期お借りして住宅として法人で改修しました。

養育に最適環境

日野市万願寺の閑静な住宅地にあり、神社と子ども広場が隣接しています。近隣のお宅とも道を隔てていますが、子どもたちがご迷惑を掛けることのないよう気をつけて生活していきたいと思っております。ご近所への引っ越しのご挨拶をいたし、このような恵まれた環境で子どもたちが安心して安全な生活ができることを祈りたいと思っております。

(施設長 高橋久美子)

法人創設100周年記念事業 しせいセンチュリープロジェクト

しせいセンチュリープロジェクト



しせいセンチュリープロジェクト概要

今日児童を取り巻く社会環境は混迷を極め、少子化の進行に反比例するように要保護児童の数は増加の一途を辿り、児童相談所の定員があり、保護を必要としながらも保護できずに危機的状況にある児童が増加しています。このような状況に対して行政は要保護児童の定員を大幅に拡大すべく施設整備を進めています。またマスコミを賑わせている虐待の問題も更に深刻化しており、入所児童が抱えている心理的ダメージは大きく、問題が重層化、複雑化しているため、問題行動への対応も困難になってきております。

このような状況下において至誠学園では、昨年より今後の児童養護と施設運営を考える中長期計画策定プロジェクトを立ち上げ、近未来における都市型の児童養護事業を創造すべく取り組んでいます。そして法人創立100周年を迎えるこの時期に、サテライト型児童養護やワークセンターまことくらぶも含めたキャンパス全体を再構成し、従来の児童養護施設の枠にとられない新しい児童家庭福祉施設を目指して、センチュリープロジェクトを進めています。

第二至誠学園（仮称）の新設

その計画として危機的状況にある待機児童の解消に向け30人定員の施設を新設するとともに、現在の幼児から高校生までの縦割りを見直し、低年齢児と高年齢児の施設に分けることでそれぞれの年齢層に合わせた生活の保障とプログラム提供や“生活のなかの治療”を考え、専門的支援を実現し、2施設で連携しながら要保護児童の健やかな成長を支援していきたいと考えています。

専門機能の充実

心理治療支援や親子生活訓練、自立生活支援のプログラムなど、現在の取り組みを充実させ、将来的にはこの機能を地域の児童家庭支援のプログラムとして提供していくことも視野に入れています。また地域の子育て家庭が日常的に交流や活動ができるようなスペースも整備し、“クオリティプロティクツプログラム”としてより開かれた施設づくりを目指します。

人材育成と調査研究

人材育成及び調査研究活動に取り組めるスペースを整備し、法人で活用しながら、分野を超えて人材育成に取り組むようインターン制度なども取り入れ、歴史的な資料、研修プログラムの開発、学習室、研究室、研修室も行っていきます。

レジデンス銀杏 大規模修繕工事 概要

改築より10年を経過したことで外壁は汚れが目立ち、ヒビも見られるようになりました。ホームの中もリ빙グ、子どもたちの居室共に壁紙は汚れ、ドアも繰り返しの修理で傷んできました。これは子どもたちの抱える問題が複雑化する中、子どもたちの心の傷ややり場の無い怒りが壁やドアに向かった結果です。そのような時も幸い子ども達が大きな怪我をする事はありませんでしたが、今後は子どもの状況によっては大きな事故に繋がりがねません。特にガス機器などは重大な事故等に繋がりがやすいことから、様々な不具合が見られ始めている各ホームのシステムキッチンを一新し、ガスからIHヒーターに切り替え、また開放感のあるアイランド型にすることで見渡しやすく、より安全に過ごせるように改修します。

来年の春にはこの大規模修繕もすべて完了し、子どもたちがより快適に楽しく生活できる新しいユニットになる予定です。

開かれた児童養護施設としての至誠学園 様々な関係機関とのつながりから

子供たちの日常生活をみて発見！

精神科 嘱託医 板井貴宏

今年度から至誠学園の精神科嘱託医として勤務させていただいております板井貴宏です。週1日、子どもたちの日常生活面と一緒に過ごすことで子どもたちの言葉を聞き、行動を見ることができました。病院の診察室を飛び出して、子どもと関わることは初めての体験でしたが、その中でさまざまな発見があり、生活場面を見ることで子どものことを本当に理解することが出来るのだと実感しました。

例えば、大人が自分に危害を加えないかどうかを試すためにわざと苛立った態度を示す、「イヤだ」とは言えるのに本当に自分のやりたいこと・なりたいことの希望は言えないなど、子どもの受けたトラウマがさまざまな形で行動に影響を及ぼしていることがわかります。これらの行動が毎日の日課や遊びの中に出てきているのを見てみると、子どもはいつも大人に何らかのメッセージを発して、その中にはトラウマから解放されるヒントが隠れているのだと思います。

子どもがトラウマから解放され自由に自己主張ができ、自立できるように援助したいと考えています。まずは子どもたちが至誠学園の中で「ここが自分の居場所だ」と実感でき、安心感を抱くことが出来るように、日常生活の中でどのような援助・対応が出来るのかを職員皆さんと考えていきたいと思っています。

県外先進児童養護施設訪問研修のお礼文より -

愛知県児童福祉施設長会 会長 木村哲雄

<前略> 東京都の「専門機能強化型児童養護施設」としてサテライト型児童養護施設のさらなる深化、拡充展開に向けて計画、実践されていくダイナミズムには大きな示唆をえました。一つには先駆的な事業を打ち出す施設経営者としての理事長様以下、法人施設の関係者の先見性と実践力、そしてそれを裏うちしてくれる東京都の行政スタンスがあります。

<中略> そこにいたるまでの「コミュニティサポート」による各種子育て支援事業や児童館、モンテッソーリ幼稚園、知的障害を持つ子どものアフターケアなど、貴法人の100年に及ぶ児童福祉事業の幹の太さを知ることができました。行政にしてもらうのではなく、行政がサポートしてくれるボランティア&フロンティアスピリッツ溢れる貴法人の施設の経営方針と先駆的な施設活動の細部について貴重な資料もいただき、多くの知見を得ることが出来ました。重ねて御礼申し上げます。<後略>

東京都指導検査報告 (2007年9月19,20日実施)

今年も、運営、子どもの処遇、会計のそれぞれの部門で、2日間に渡り、子どもたちの生活環境諸記録、帳簿など細かくチェックしてもらいました。全体の講評は、「今後も専門機能強化型施設として東京都の児童養護をひっぱってほしい。」でした。また、至誠学園の職員研修や地域サテライト型グループホームシステムを見て「10年先の施設を支える人材を輩出してほしい」「大人も子どももストレスのコントロールをしてほしい」というお話をいただきました。

<職員とのやり取りから>

グループホーム五番館のホーム会議の記録を見て

職員：ホームに移動して間もない頃、人間関係が上手く行かず本園に訴えに行き、数日泊めてもらいました。その時に、何日もかけてホームで話し合いをしました。

監査官：とにかく言葉のやり取り、感情のやり取りがあっている。本園だと高校生の女の子が職員とゆっくり話す機会はずまいでしょうね。

職員：幼児や小学生が寝た後の時間に関われるよう職員は工夫しています。

監査官：それぞれのホームに特色があっているですね。

グループホームレオ

職員：児童養護施設も1歳から受け入れ可能に法律が改正されたので、将来的ニーズを考えたことと、被虐待児が増え、縦割りの中で幼児が育っていくことの難しさから、幼児期を大事にするためにも幼児専門のグループホームを作ることにした。

監査官：確かに縦割りのホームの中で2歳未満は難しいですね。乳児院でも4歳5歳はいますものね。建物があったからレオを作ったのではなく、必要があったからレオを作ったのですね。攻撃の対象にならない為に。兄弟ケースなどのボーダレス化ですね。一本とられたという感じです。

研修を修了して

専門里親 田中悦子

猛暑が続いていた9月初旬に専門里親研修のため7日間至誠学園を訪れました。施設での実習は私にとって初めての経験でした。

私は千葉県里親会のメンバーですので本来ならば千葉県での実習が筋でした。しかし平成17年8月28日にアセアン諸国上級行政官20名来日しそのうちの1名が私が現在勤務しているブルネイダルサラーム国から至誠学園を訪問しました。

偶然にも行政官が親しい友人でしたので私が専門里親の研修を予定していることを話したところ、地域に開かれより家庭に近い形で児童を支援している至誠学園を薦められました。そこで、日本の厚生労働省に了解を得て学園をお願いをし今回の実習が実現しました。

学園長による施設の概要の説明を受け、いよいよ児童たちが住んでいるグループホームに宿泊しながら児童たちと、そして、いつも対応している職員の方々に接し実感したことは、私には対応出来そうもないたくさん抱えている子供たち一人一人との関わり方でした。どうしてこういう難題に対処することが出来るのか色々な側面から1週間考え、そして直接リーダーの方々に話を伺いました。大変な問題を抱えていてもそれを受け取る事の出来る「うけざら」がここにはあるとの事でした。職員全体協議会を開くことで情報の共有を図りお互いのズレを少なくするように心がけているとのこと。そこに問題を抱えている児童を支え修復していくキープポイントと思いました。

私は今現在11月29日にて9歳になるうとしている男の子を2歳から養育しております。

殆ど里親として研修を受けずに養育をする事になった夫と私の手探りの約7年でした。たった一人の養育でさえ、迷い、誰にも相談できずただただ無我夢中の日々だったと思います。職員の皆さんは児童一人一人とかかわらなければいけないのです。そしてその個人個人が計り知れない問題を抱えている子供たちなのです。私は、一瞬、たった一人の子供の養育者として今までの7年間取り返しのつかない日々を子供と過ごしてきたのではないかと不安に取り付かれ、自分自身がどのように両親から育てられてきたのか自分の歴史を問われた7日間でした。

職員の皆さんの奮闘ぶりには敬服いたしました。そして私も、もう一度自分自身を見つめ直すことが出来る機会を与えられ高橋学園長、高橋施設長始めお世話になった皆様に心より感謝しております。この出会いを大切に専門里親として、また一市民として多くの児童の抱える課題に微力ながら色々な関わりをしていきたいと心より願っております。

子どもたちのなつやすみ

立川スターレーン様ボウリングご招待 (6/21)

6月22日のボウリングの日にちなんで、立川スターレーン様よりボウリングにご招待いただきました。重いボールを手に持ち、慣れないながらもピンめがけて全力投球しました。初めてやる子どもには、ボウリングを知るよい機会となりました。なかなか思うようにボールを投げることができない子ども、一喜一憂しながらゲームを楽しみました。

親と子のよい映画を見る会ご招待 (6/23)

「かんからさんしん」という沖縄戦の映画に涙しながらも、子どもたちはどう生き抜いたかを知ることで、平和について考えるよい機会となりました。

かっぱ座様ミュージカルご招待 (7/14)

子どもたちがずっと待ち望んでいたミュージカル「天のたまご」を鑑賞し、舞台の世界にすっかり引き込まれていました。

学童クラブ (7/23~7/28)

毎年恒例となる学童クラブを5日間の日程で開催しました。地域の子どもたちにもたくさんご参加をいただき、延べ175名の子どもたちが集まりました。工作やクレープ作り、また、国立のママ下湧水にザリガニ取りに出掛けたり、柴崎体育館のプールに出掛けたりと、さまざまなプログラムを催し、子どもたちも満足していたようでした。

ライオン様 隅田川花火大会ご招待 (7/28)

(株)ライオン様の本社にご招待いただき、屋上で隅田川の花火を見物させていただきました。花火見物の前には美味しいお食事や綿菓子、ヨーヨーつりや輪投げなどを用意していただき、社員の方々と楽しく交流することができました。間近で見た隅田川の花火のボリュームと迫力に、一同感動しました。



江戸っ子杯ドッチボール大会 (7/31)

1ヶ月前から暑い日差しの中重ねてきた練習の成果を出すことができ、見事ベスト8に入賞することができました。



法政大学次世代育成イベント (8/10)

法政大学高橋ゼミナール主催の「夏の大学たんけん隊～みんなで遊ぼう緑のキャンパス2007～」に学園の子どもたちも参加しました。地域の小学生や保護者の方々、大学生ボランティアの方々と交流し、大学という大きなキャンパスの中で手作りのゲームや福祉体験をしてきました。

この他にも数多くの機関や団体の皆様にご招待、ご協力をいただきました。紙面の都合上、ご紹介しきれませんでした機関や団体の皆様には、この場を借りまして御礼を申し上げます。ありがとうございました。

臨海行事

今年の夏は勝浦の家をいくつかの班に分かれて交替で、また、徳井様のご厚意で御宿のゲストハウスをお借りして、リゾートライフを楽しみました。海水浴や釣り、朝市に出掛けたり、バーベキューをしたりと普段できないことを経験してきました。徳井様からは美味しいお刺身やお野菜、果物などたくさんの差し入れをいただきました。



東京都児童部会第6ブロックバレー大会 (8/20)

小学校低学年中心のメンバーで、惜しくも6位という結果でしたが、暑い体育館で精一杯戦ってきました。来年は強くなれるように頑張ろうと、気持ちを新たにしました。

東京都児童部会第6ブロック野球大会 (8/25)

地道に練習を重ねた結果、チームワークよく準優勝することができました。決勝戦には野球部以外の子どもたちも駆けつけ、皆で応援しました。表彰式で立派な賞状をいただき、学園に帰ってきてからもたくさんの祝福を受けました。



2学期スタートの会 (9/2)

1学期の頑張った子どもたちへの表彰や、夏休みの楽しかった思い出を振り返りました。徳井美千代様からの豚まんやぶどうを美味しくいただきながら、2学期の始まりに向け気持ちを引き締めました。

ダイエー様と園遊会 (9/8)

当日は台風一過の晴天でした。会では、バーベキューや焼きそば、果物などの美味しいお食事を提供していただきました。また、子どもたちと一緒にスポーツで汗を流したり、カキ氷を作ったりと、楽しい休日を過ごさせてくださいました。

彼岸行事 (9/23)

青山の善光寺へお墓参りに行きました。前園長先生、学園のお母様、そして卒園生の方々を偲びました。その後グループに分かれて都内散策に出掛けました。

上野動物園へ行ったグループは、園内の絵はがきコンテストに応募し、見事なかちゃん飼育係賞に選ばれました。



子どもたちの夏の国際交流

フィンランドへ行って 高2 しょうたろう

ライオンズクラブYE委員会主催

このたび立川ライオンズクラブ様のご支援によりフィンランドへ交換留学させていただきました本当にありがとうございました。フィンランドでは三ヶ所のご家庭に1ヵ月ホームステイさせていただき、街並みの美しさや自然の雄大さだけでなく、家庭の温かさも体験させていただき心から感激しました。1人でのホームステイは正直心細かったですが、多くの方の優しさに触れて、頑張る事が出来ました。本当にありがとうございました。



成田空港にて各国へ旅立つYE生と会長

海外生活体験の旅に参加して 高1 ゆうたろう

テレビ朝日福祉文化事業団主催

僕にとっては初めての海外旅行で、最初から最後まで驚きの連続でした。アメリカのオレゴン州ポートランドで一週間過ごし、ホームステイも体験しました。いろいろな場所に連れて行ってもらう貴重な体験を多くする事が出来ました。気候も素晴らしく、僕はもう少しアメリカにいたいなと思いました。

今回、海外生活体験の旅に参加させていただきましたテレビ朝日福祉文化事業団様には心より感謝いたします。本当にありがとうございました。



ホームステイ先のご家族と一緒に



老人センターでのボランティア活動

交換留学生キム・ダニエル君を迎えて ~ 学園にホームステイ ~

アメリカから交換留学生を私たちのグループホームでお迎えするとのお話を頂き、正直期待と不安の入り混じった気持ちでした。エンゼルハイムの子供達も職員ですら誰一人英語が得意でなく、それこそ「こんにちははハローだね?」と事前に相談したほどでした。

ところがエンゼルハイムにやってきたダン君はカタコトの日本語で自己紹介をして、食事も上手に箸を使って食べられるではないですか。それからスムーズに打ち解ける事ができました。夜は一緒にゲームをしたり、バスケの練習に参加したり、スコールの様な雨が降った時には外に飛び出して雨の中で写真を撮ったりしました。至誠学園のホールで行われたウエルカムパーティーでは素敵なピアノを聞かせていただき大変驚かされたりもしました。また子ども達の野球やドッジボールの試合があった時には一緒に応援に来てくれて、大きな声で飛んだり跳ねたりしながら応援してもらいました。

エンゼルハイムでは一週間という短い時間しか一緒にいられませんが、初めて外国の方をお迎えするといった経験をさせていただき、子ども達にとっても職員にとっても素晴らしい経験になりました。またダン君と会える日が来る事をホーム全員で心より祈っています。



研修に参加しました

東京都児童部会第6ブロック学習会

「デートDVとは？」 今井城学園

研修日：5月18日(木) 参加職員2名

デートDVとは婚姻関係にない男女の間で行われるDVのことで、一般的にあまり知られていないのが現状です。DV同様、「支配」と「依存」の関係で成立していて、個々人の価値観によってDVの捉え方に違いが生じてしまうため、その定義は難しく、被害を受けているのかかの判断が当事者にも分からないことが多いようです。しかし、DVだと感じたら臆することなく声を上げることが必要であり、また男女ともに被害者・加害者にならないよう、DVに関しての正しい知識を身につけておくことが必要だと感じました。

「性的トラブルにどう対応するか？」 エス・オー・エスこどもの村

研修日：6月7日(木) 参加職員2名

現在、テレビや雑誌等による性に関する情報は溢れていて、子どもたちは間違った情報を得ていることが多く、子どもたちが正しい知識を持てるよう、施設においても積極的な性教育が必要です。子どもと一緒に性の話ができるように、職員は正しい知識を持たなくてはならず、また、性的トラブルに遭遇したときに慌てず対処できるように、職員間で連携がとれる体制を作っておくことが必要だと学びました。

「虐待と非行の心理」 生長の家神の国寮

研修日：9月6日(木) 参加職員2名

社会背景の変化に伴い、非行内容も変化しています。少年院在院者の五割が被虐待体験を有し(2001年法務総合研究所調べ)、虐待が非行に至るケースも少なくない中で「子どもと接する大人は心の交流が持ていないと感じても誠意を持って接し、真剣に向き合う事が大切だ」という調査官時代のエピソードを織り交ぜての講演は説得力があり、自分もそうでありたいと強く感じました。

東京都社会福祉協議会児童部会 新任職員事前研修

研修日：5月21日(月) 参加職員6名

新任職員として期待されること、求められるものを学び、他施設の新任職員・先輩職員との交流を通して資質の向上を図る研修でした。印象的だったのは、組織力とは「1+1+1=3+」であり、一人で解決できない問題もチームで取り組むことにより解決できたり、目標を達成できたりするというお話でした。この研修で自分自身の気づきやこれからの目標を見つけることができ、これから子どもたちへの援助に生かしていきたいと思えます。

児童福祉施設職員のためのワークショップ

研修日：9月26日(水)・27日(木) 参加職員2名

講師：サンフランシスコ州立大学 名誉教授

ロジャー・カミングス先生 同 田中万里子先生

主催：テレビ朝日福祉文化事業団 至誠学園

研修会場：ザ・クレストホテル立川

講座は、理論学習、演習、グループによる事例検討の流れで、コミュニケーションの原理について、効果的なコミュニケーションと非効果的なもの、職員と子どもの関係がうまくいかないとき(自分の問題がいかに関与しているかを考えてもらう)、パラフレーズ、明確化、気持ちを汲む、NLPの目の動きなど、職員の子どもの日常的な対話、または問題が起こったときの対話に関するグループ考察、でした。

複雑かつ重層的な課題を抱える施設入所児が急増する中で、子どもたちとのより良い関係を形成し適切な援助を行うために私たちが身につけておくべき知識や技術として、即実践しうる技術や知識を身につけられたと同時に、様々な意味でこれまでの自分自身を振り返り、見つめ直す良い機会となりました。

第33回資生堂児童福祉海外研修

期間：平成19年9月22日～10月6日(15日間)

主催：(財)資生堂社会福祉事業財団

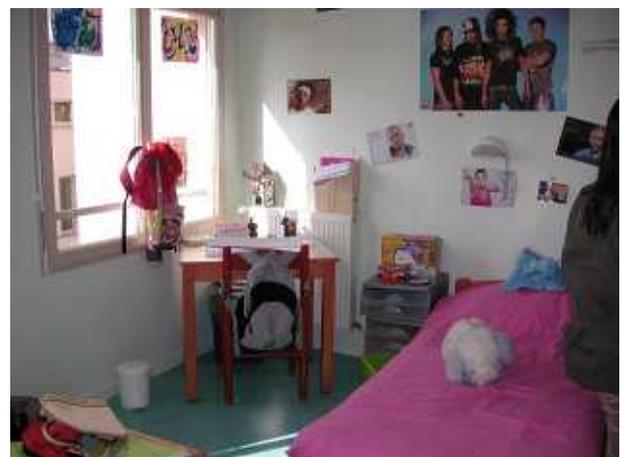
研修先：フランス(パリ)、イギリス(ロンドン)

派遣職員：木山

研修テーマ：「フランス・イギリスにおける要保護児童とその家族への対応について」

少子化や家族のあり方は日本の大きな社会問題ですが、それらの問題に日本より先進的であるといわれているフランスの実情を学ぶと共に、日本と同じ施設形態を持つフランスの要保護児童と保護者への処遇実態を学ぶ。併せて、イギリスで展開されている被虐待児の精神的回復に関する処遇技術の研修を受けました。

特に印象に残ったことは、民間福祉団体と市民一人ひとりの力強さです。「究極の目標は虐待をゼロにすること。」「どんな人にも良いところがあります。そこに期待したいのです。」このような思いのもと、児童福祉に取り組む同志が日本と同じく世界にもたくさんいることを感じ、とても嬉しく思いました。



ボーイスカウト多摩川地区指導者講習会

研修日：9月9日(日) 参加職員2名

5人のリーダーから、簡単なゲームなどを交えながら、ボーイスカウトの歴史に始まり、ボーイスカウトが青少年にとってどのようなものであるか、また活動の中で大人はどのようなことを心がけながら子ども達と関わることが大切なのか、ということ学びました。

今までボーイスカウトに関わったことなかった私達にとって、ボーイスカウトがどのようなものなのかを知り、普段子ども達とどのような活動に参加しているのかを知る良い機会となりました。

至誠学園ウィンターバザーのお知らせ



至誠学園バザー
 平成19年12月2日(Sun) 10:00~14:00

物品の販売(食料品・日用品・衣類)・模擬店・
 ステージアトラクション・福引き等あります!
 物品のご提供、当日のご来園・ボランティア等
 皆さまのご協力をお待ちしております!

お問い合わせは、至誠学園バザー実行委員会まで
 東京都立川市錦町 6-26-15
 tel:042-524-2601 fax:042-524-2367
 e-mail: info@shisei.org

この冬も至誠学園ウィンターバザーを開催いたします。このバザーの収益は、子どもたちの冬季行事費及び施設運営の資金としますとともに、当学園の活動を地域の皆様により理解していただくことを目的としております。ぜひご来園下さい。

日時:平成19年12月2日(日)
 午前10時00分から午後2時00分まで
 場所:至誠学園の園庭及び室内(雨天決行)
 内容:イベント・衣類・日用品・玩具・食料品・模擬店・福引他

バザーに関する問い合わせは
 至誠学園バザー実行委員会まで
 (TEL 042-524-2601)

今後の主な予定

児童虐待防止月間啓発事業

第4回記念セミナー「児童虐待を考える」
 日時:11月28日(水) 18:30~21:00
 場所:立川市女性総合センターアイム ホール1階
 「児童養護の現状」
 社会福祉法人至誠学舎立川 理事長
 法政大学 現代福祉学部教授 高橋利一
 「虐待の連鎖を止めるには <当事者の立場で>」
 サークル・ダルメシアン 代表 岡田ユキ氏
 主催:至誠学園
 後援:立川市、立川市社会福祉協議会、立川市民生委員協議会、東京立川ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト立川、東京立川ロータリークラブ、東京立川こぶしロータリークラブ

立川市子ども支援ネットワーク平成19年度全体会

日時:11月9日(金) 14:00~16:00
 会場:立川市市民会館 小ホール
 「子どもたちの笑顔を守るために
 - 虐待体験からの回復とそのプロセス -」
 社会福祉法人至誠学舎立川 理事長
 法政大学 現代福祉学部教授 高橋利一
 主催:立川市子ども支援ネットワーク

- 11/15 七五三
- 11/20 施設文化祭
- 11/20 三多摩児童養護施設ジュニアサッカー大会
- 11/25 いなげや様料理コンテスト
- 12/9 ゴールドマンサックス証券様ホリデー・パーティ
- 12/16 モンテッソーリ立川子どもの家クリスマス会
- 12/24 学園クリスマス会

東京立川ロータリークラブ様より表彰をいただきました。

10月12日、東京立川ロータリークラブ様より、優良職業人として高橋久美子施設長が、社会奉仕功労者としてボランティアの西山邦幸さんが表彰をいただきました。

至誠学園後援会ご加入のお願い

毎年、多くの方々から後援会費をご送金いただき心より感謝を申し上げます。今後とも変わらぬご支援を、どうぞ宜しくお願いいたします。

また、新規のご入会も随時受け付けております。子どもたちのために、あたたかいご支援いただけますようご入会をお願いいたします。

(至誠学園後援会 会長 三田鶴吉)

会費の納入につきましては、下記の口座にて承ります。

< 後援会ご入金内容 >

1. 個人会員 1口(年額2千円)以上
2. 団体会員 1口(年額5千円)以上
3. 賛助会員 (寄付金)
4. 施設扱いの寄付金

郵便振替口座

口座番号00140-2-356681
 口座名 至誠学園後援会

中央三井信託銀行立川支店

口座番号 普通 792588
 口座名 至誠学園後援会

至誠学園後援会事務局

立川市錦町 6-26-15(至誠学園) TEL 042-524-2601

編集後記

今年の夏はうだるような暑さが続きましたが、子どもたちは猛暑に負けることなく元気いっぱい過ごしました。また、夏休み中にはこのおたよりでお伝えしきれない程の思い出を作りました。これはひとえに学園を支えて下さっている皆様あってのもの強く感じています。これからも変わりゆく学園の様子をつぶさに報告していけたらと思います。

ご意見、ご感想等をお寄せいただけましたら幸いです。